

教養科目		社会科学部・保健医療福祉学部・ 心理学部・アニメーション文化学部				2023年度 カリキュラムマップ									
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)															
※学科のディプロマポリシーを記載															
自ら学 ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。												
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。												
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。												
生きぬく 力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。												
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。												
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。												
信じ る能力を	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。												
◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPIに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)															
授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7			
人間力 育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎			
	◆ SDGs概論	1	1	春	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎				
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎				
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎			
キャリア 教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎			
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎			
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。 具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎			
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春	「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△					
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI利活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI利活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○		
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。 数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○		
言語教育科目	外国語	◆ 英語基礎Ⅰ	2	1	春	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅰ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎				
		◆ 英語基礎Ⅱ	2	1	秋	「英語基礎Ⅰ」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅱ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎				
		◆ アクティブ英語Ⅰ	2	1	春	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅰ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎			
		アクティブ英語Ⅱ	2	1	秋	「アクティブ英語Ⅰ」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅱ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎			
		レベルアップ英語Ⅰ	2	2	春	海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎		
		レベルアップ英語Ⅱ	2	2	秋	「レベルアップ英語Ⅰ」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎		
		中国語と中国文化Ⅰ	2	1	春	中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎		
		中国語と中国文化Ⅱ	2	1	秋	「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	外国語	フランス語とフランス文化Ⅰ	2	1	春	フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎	◎			
		フランス語とフランス文化Ⅱ	2	1	秋	「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎	◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅰ	2	1	春	ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎	◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅱ	2	1	秋	「ドイツ語Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎	◎			
	日本語（留学生専用科目）	◇ 日本語ⅠA(文法)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		◇ 日本語ⅠA(読解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		◇ 日本語ⅠA(聴解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		◇ 日本語ⅠB(文法)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		◇ 日本語ⅠB(読解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		◇ 日本語ⅠB(聴解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡA(文法)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	日本語（留学生専用科目）	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
基礎教育科目	社会の理解	日本国憲法	2	1	春 または 秋	日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○			
		経済学	2	1	春 または 秋	私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。 経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎				
		社会学	2	1	春 または 秋	社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的な分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△		
	人間形成	哲学	2	1	春 または 秋	哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。 古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△			
		心理学	2	1	春 または 秋	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△
		多様性の理解	2	1	春 または 秋	異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎		

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
基礎 教育 科目	人間 形成	文章力の基礎	2	1	春 または 秋	大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○				
		美術の見方	2	1	春 または 秋	自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○				
		生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○				
		生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋	様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎				
	自然 科学	数的理解	2	1	春 または 秋	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△		
		化学	2	1	春 または 秋	基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎					
		生物学	2	1	春 または 秋	生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△			
		環境科学	2	1	春 または 秋	現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△		

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学部名	保健医療福祉学部	学科名	理学療法学科	2023年度 カリキュラムマップ
-----	----------	-----	--------	------------------

理学療法学科のDP（ディプロマ・ポリシー）

※学科のディプロマポリシーを記載			
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	医学に関するノレッジと理学療法学に関するスキルの下、人々の問題について身体的側面を中心として総合的に理解する力を身につけている。
	DP2	情報の活用	理学療法による課題解決に向けた最新かつ最適な情報を収集し、多様化する社会で人々が豊かな生活を送るためのリサーチ力を身につけている。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	理学療法士として科学的で論理的な思考能力と専門的職業人としての使命感をもち、主体的に学んで自己研鑽する意欲を身につけている。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	様々な生活機能の人々に対して共感的な態度のもと、自分の考えをまとめる力、豊かにプレゼンテーションを行う力、多職種でコラボする力を身につけている。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	多様性を増す社会において国際志向および地域志向を兼ね備え、人々と生活環境と地域の関係性のなかで、課題解決をサポートする力を身につけている。
	DP6	課題解決力	生活機能に困難を抱える人々の多様な問題を分析する力と、理学療法のスキルを活用して生活機能を最適化する創造力を身につけている。
可能性を信じる力	DP7	自己効力感	大学生活のなかで修得したスキルを医療現場や身近な地域で実践することで自信を高め、多様性を増す社会で新しいことにジョインする力を身につけている。
	DP8	多様性を増す社会のニーズにコミットする力	人々を取り巻く社会の変化のなか、様々な法制度下のもとで、理学療法のノレッジとスキルを活用して、地域社会をよりよくするコミット力を身につけている。

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（100％） ○：科目の到達目標が該当のDPに関わる科目（70％） △：科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目（30％）

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	◆ 解剖学Ⅰ	1	1	春	人体は一個の受精卵から出発し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学は、その人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合せて各専門科目を学ぶための基礎とする。 講義内容、（１）分子細胞学（２）組織学（３）発生学（４）骨格系（５）筋系（６）神経系（７）感覚器系（８）内分泌系（９）消化器系（１０）循環器系（１１）呼吸器系（１２）泌尿器系（１３）生殖器官系	◎	△	○					
		◆ 解剖学Ⅱ	1	1	秋	神経症状、神経疾患を理解するためには、神経系の解剖学的知識が必須である。頭蓋骨、脊椎骨、脳・脊髄、神経伝導路、末梢神経、自律神経系、脳脊髄液、脳を栄養する血管などの解剖学的構造と神経症状、神経疾患との関連をプリントとスライドを用いて講義する。	◎	△	○					
		◆ 解剖学演習Ⅰ	1	1	春	解剖学の講義で得た知識を実習によってより深め、生きたものとするを目的とする。 解剖学実習では、自分の目で人体及び人体模型の各部を良く観察してスケッチし、自分の手で解剖も行う。実習では単に形態だけでなく、常に各器官、各組織の構造と機能との関連性を念頭において行う。 実習内容、（１）骨学及び筋学（２）神経解剖学（３）内臓学（４）組織学（顕微鏡による観察）（５）動物解剖	◎	△	○					
		◆ 解剖学演習Ⅱ	1	1	秋	人体の構造や仕組みについての基礎的事項から臨床に生きる知識へ、生理学的機能を考慮しながら理解する。将来リハビリテーションに携わるうえで、実践的な病態構築ができるような知識を身につける。解剖学の基礎知識をベースとして、生理学や運動学と関連付けながら講義を行う。	◎	△	○					
		◆ 生理学Ⅰ	1	1	春	医学の基礎知識として、「からだの働きとしくみを学び、生体の巧妙な機能を理解する」ことをテーマとし、臨床医学、作業療法学を学ぶ上での「基礎知識の習得、生体の機能を理解する上での思考パターンを形成する」ことを到達目標とする。	◎	△	○					
		◆ 生理学Ⅱ	1	1	秋	医学の基礎知識として、「からだの働きとしくみを学び、生体の巧妙な調節機能を理解する」ことをテーマとし、臨床医学、作業療法学を学ぶ上での「基礎知識の習得、生体の機能を理解する上での思考パターンを形成する」ことを到達目標とする。	◎	△	○					
		◆ 生理学実習	2	2	春	生理学の講義で得た知識を、「生体を使って実際に実験を行って、生体現象を肌で感じ、生きた知識とすること」をテーマとし、この過程で得た「科学的な思考力を養うとともに、実験データのまとめ方、レポートの書き方などを身につけること」を到達目標とする。	◎	△	○					
		◆ 運動学Ⅰ	1	1	秋	運動学は理学療法士の最も基本的な学問であり、また臨床の理学療法士が治療場面で応用する学問である。本講義は、主に上肢帯と上肢および手指機能に関する講義を行う。また、後半では姿勢と歩行に着目し、基本的歩行能力および歩行機能に関して深く追求する。	◎	△	○					
		◆ 運動学Ⅱ	1	2	春	実際の臨床に生かすことのできる運動のバイオメカニクスや解剖生理学的な知識を習得する。臨床にどのように応用するのか、自分で考えることができるよう生きた運動学を身につける。	◎	△	○					

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	◆ 身体運動学実習	1	2	春	身体運動学とは人間の体の運動のしくみを研究する学問であり、力学と解剖学がその基本となる。これを理解したうえで、実際の人間の正常運動を運動動作分析の手法を用いて解析する。運動動作課題にともなう身体の動きを目で確かめ、種々の動作分析機器を用いて計測を行い、記録分析する。 具体的には1. 体の重心、2. 筋電図、3. 関節モーメント、4. 呼吸と代謝、5. 加速度と力、歩行分析などのテーマについて実習を行う。	◎	△	○					
		◆ 運動発達学	1	2	集中講	出生から1歳まで、子どもが運動機能を獲得していく過程、および運動機能の発達と密接に関連する認知機能・遊び・食べる機能・感情の発達について学ぶ。	◎	△	○					
		人間発達学	1	2	春	「人間発達学をリハビリテーション専門職の視点から学ぶ」ことが授業のテーマである。 到達目標は、胎児期から老年期までの各期における運動機能、認知機能、言語機能、情緒・社会性の機能の発達を説明できるようになることである。	◎	△	○					
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	◆ 病理学	1	2	春	病理学は基礎医学の総まとめであり臨床医学に入門するために必要な学問である。これまで学習した内容を総合して、病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が辿る最終的な結末（転帰）といった病気の本態に関する基礎を学ぶ。医療に携わる者にとって、どんな職種であれ必要不可欠な学問である。本講義では病理学的な考え方を身につけ、臨床医学をさらに理解できることを到達目標とする。	◎		△					
		◆ 臨床心理学	1	2	春	テーマ：人のこころの仕組みについて理解し、心理援助が必要な人々への心理学的援助に関する知識や方法を学ぶ。 到達目標：臨床心理学の基礎的な内容を理解し、心理援助に応用できる知識と実践的な態度を身につける。	◎	○	△		○	△		
		◆ 内科学Ⅰ	1	2	春	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎		△					
		◆ 内科学Ⅱ	1	2	秋	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎		△					
		◆ 整形外科Ⅰ	1	2	秋	到達目標：「運動器の基礎科学・解剖・生理」、「整形外科疾患の病態、診断、治療、リハビリテーション」をテーマとし、運動器の解剖、生理、さらに整形外科疾患の病態やその治療方法を学び、運動器疾患の専門家として臨床の現場で困らないだけの知識と課題を分析し解決する能力を学生が身につけることが出来る。 授業内容：この講義では、今までに学修した解剖学・生理学の知識を踏まえ、整形外科疾患の病態を理解し、診断方法を学び、臨床の現場に役立つ力を身につけるものである。病態や治療法を理解する上で重要な基本的・普遍的なポイントをおさえつつ、随時最新の知見を取り入れて講義する。また、実際の症例を多くの画像を用いて紹介し、臨床の現場で必要となる科学的根拠に基づいた判断力・思考力も養えるようにする。	◎	○	△		○	△		
		◆ 整形外科Ⅱ	1	3	春	到達目標：「運動器の基礎科学・解剖・生理」、「整形外科疾患の病態、診断、治療、リハビリテーション」をテーマとし、運動器の解剖、生理、さらに整形外科疾患の病態やその治療方法を学び、運動器疾患の専門家として臨床の現場で困らないだけの知識と課題を分析し解決する能力を学生が身につけることが出来る。 授業内容：この講義では、今までに学修した解剖学・生理学の知識を踏まえ、整形外科疾患の病態を理解し、診断方法を学び、臨床の現場に役立つ力を身につけるものである。病態や治療法を理解する上で重要な基本的・普遍的なポイントをおさえつつ、随時最新の知見を取り入れて講義する。また、実際の症例を多くの画像を用いて紹介し、臨床の現場で必要となる科学的根拠に基づいた判断力・思考力も養えるようにする。	◎	○	△		○	△		
		◆ 臨床神経学	1	2	秋	この授業の目的は、神経症状の検査法（神経診断学）と各種の神経疾患の臨床像（神経病学）の理解であり、国家試験に対応できるレベルの知識の習得を到達目標とする。このレベルは実際の医療現場で患者を担当するのに必要な最低限度の知識である。	◎	○	△		○	△		
		◆ 小児科学	1	2	秋	テーマ：小児の発達特徴と小児科疾患の病態生理及びその特異性を学ぶ 到達目標：小児期の成長と発達の特徴を理解して、胎児から乳幼児、学童、思春期への連続性と各時期における疾患特異性を理解する 小児疾患の病態生理を理解し、その特異性も学ぶ	◎	○	△		○	△		

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
専門基礎分野	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	◆ 精神医学Ⅰ	2	2	春	テーマ：精神状態の評価と代表的精神障害の臨床症状やその治療を学ぶ。 到達目標：精神医学の基礎的事項・総説的事項を理解できる。代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解できる。精神障害特性を理解し、精神障害者へのリハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学ぶ。精神医学の歴史的な背景を理解できる。精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。	◎	○	△		○	△		△
		◆ 臨床薬理学	1	2	春	「薬物の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について」をテーマとする。薬物に対する生体の反応についての基礎的知識を習得することができる。すまわち、薬の作用と有害作用（副作用）、循環器系に作用する薬、抗菌剤の抗菌スペクトルと有害作用、抗癌剤、抗うつ薬・抗精神病薬等の精神科領域の薬等の作用機序、有害作用、臨床応用等について習得することができる。	◎	○	△		○	△		
		◆ 公衆衛生学	1	2	秋	公衆衛生活動の目的は、その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気や健康障害を起こりやすくしている環境や制度に注目する。身体活動や生活機能を個人の身体的精神的能力だけではなく、その人の持つ社会的能力やその人の暮らす社会の機能に注目して評価し働きかけようとする活動であり、学問でもある。また、現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、その手法は学問的に精緻化されている。この科目では、公衆衛生の上記のような基本的考え方が身につくことが目標である。	◎	○	○	△	○	△		
		◆ 臨床栄養学	1	2	秋	健康と栄養との関わりについて理解し、食生活のあり方について考えることをテーマとする。到達目標として①栄養素の体内での働きについて理解する。②健康の保持・増進のために、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかを理解する。③疾病と栄養の関係について学び、疾病の予防・治療・増悪化防止のための栄養食事療法について理解する。	◎	○	△		○	△		
		◆ 一般臨床医学	1	3	秋	近年医療が急速に進歩する中で、専門分野以外の外科・産婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科等について、基本的な初期医療（プライマリーケア）に対応する能力の重要性が指摘されている。本講義ではそれらの基本的な考え方、知識を習得し、対応できる能力を高めることを到達目標とする。	◎		△					
		◆ 救急救命医学	1	3	春	到達目標：心肺蘇生術や理学療法士・作業療法士として実際の臨床現場で遭遇しうる救急疾患の病態、対処方法、感染症の基礎的知識および予防法について知り、理解すると共に、臨床現場で困らないだけの実践力をつけることを目標とする。 授業内容：「応急処置の基本と各場面における応急処置の実際」、「微生物学の基礎に基づく滅菌・消毒知識とその応用」を学ぶ。	◎	○	△		○	△		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	◆ 保健医療福祉概論	1	1	春	保健医療福祉の根底となる理念を理解した上で、現代社会において保健医療福祉を学ぶ重要性を考え、また、保健医療福祉とは何かというものの理解を深めさせる。そして、保健医療福祉サービスを提供する上で、基盤となる概念を理解し、保健、医療、福祉分野における諸問題について考察できる力を養い、そのことによって、それぞれ個々人の保健医療福祉への関心と問題意識を高めることができるよう講義する。	◎	△	○					
		◆ リハビリテーション概論	1	1	春	4年間にわたり理学療法士になるための教育を受ける上で基本となるリハビリテーションの歴史、理念をまず身につける。その上で、秋学期の「リハビリテーション医学」を学ぶための基礎的知識を身につけることを目標とする。学生は大学で学ぶべき内容の概観を得ることができる。	◎	△	○		○	○		○
		◆ リハビリテーション医学	1	1	秋	春学期で学習した「リハビリテーション概論」の基礎知識を基に、2年次以降開講される専門科目をスムーズに学習できるリハビリテーションに関わる基礎知識を身につけることを目標とする。学生はリハビリテーションの対象となる主たる疾患の知識を身につけることができる。	◎	△	○		○	○		○
		◆ 老年学	1	3	春	世に老いることの楽しさ、有意義な点を述べた本は多くみるが、本当は老いるということは辛くて、さびしくて、悲しいことである。この事実を年をとるにつれて体の機能がいかに低下するかということを通して理解するのが本講義の目的である。	◎	○	△		○	△		
		医療データオペレーションⅠ	2	1	春	保健科学を目指す学生が必要とする、必要最小限度のコンピュータ技術を実習形式で講義する。具体的には、春学期はワードプロセッサを中心に講義する。また、Web ブラウザ、電子メール、FTP 等のネットワークアプリケーションの使い方も講義する。	◎		△	◎			○	
		医療データオペレーションⅡ	2	1	秋	保健科学を目指す学生が必要とする、必要最小限度のコンピュータ技術を実習形式で講義する。具体的には、秋学期は表計算ソフトを中心に講義する。また、Web ブラウザ、電子メール、FTP 等のネットワークアプリケーションの使い方も講義する。	◎		△	◎			○	

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
専門基礎分野	保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	医療データ解析演習	2	3	秋	さまざまな臨床データを集計・分析し、さらに与えられたデータから予測可能な結果をシミュレートすることを学んでいく。このような科学的処理の多くは、スプレッドシート・プログラム(Excel)の集計・分析機能および種々の関数群を駆使することによって可能であるので、それらの機能の使用法を実際の臨床データを用いて徹底的に学んでいく。	◎		△	◎			○	
		実践医療英語	2	2	秋	授業では分野で必要とされる専門用語の習得と患者さんへの指示に使用する基本的な表現や利用する器具の名称についての学習を行う。難解な専門用語は繰り返し学習する必要があるのでクイズや小テストを利用して身につくように工夫する。また、会話のペアワークも行う。	◎		△	◎			○	
専門分野	基礎理学療法学	◆ 理学療法学	1	1	春	理学療法の歴史や概念、理学療法士の役割や方法、社会・医療人として必要な資質や情報管理、理学療法士を取り巻く法律関係、理学療法士の業務と国家行政や施策の関係を学習する。さらに、将来の理学療法士としてふさわしい素養・知識そして品格を身につける。	◎	△	○				△	
		◆ 理学療法基礎演習Ⅰ	1	1	春	理学療法学習に必要な基本的な文章の読解力や基本的な数学の計算方法や高校程度の生物学を習得する。また、理学療法の基礎となる人体の構造について少人数による調べ学習、討論を行い、臨床医学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎	○	◎	○				
		◆ 理学療法基礎演習Ⅱ	1	1	秋	国家試験に必要な文章の読解力や計算の方法や生物学的知識をを習得する。実際に過去の国家試験を教材とする。また、理学療法の基礎となる人体の構造について少人数による調べ学習、討論を行い、臨床医学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎	○	◎	○				
		◆ 理学療法基礎演習Ⅲ	1	2	春	理学療法の対象となる疾患・臨床症状（骨関節疾患）について、少人数からなるグループで学習、討論を行い、理学療法の臨床に繋がる知識として修得する。	◎	△	○					
		◆ 理学療法基礎演習Ⅳ	1	2	秋	理学療法の対象となる疾患・臨床症状（神経疾患・内部障害等）について、少人数からなるグループで学習、討論を行い、理学療法の臨床に繋がる知識として修得する。	◎	△	○					
		◆ 理学療法総合演習	2	4	秋	4年次までに学んできた基礎医学、臨床医学および理学療法専門科目について知識を整理統合し総合的に理解する能力を身につける。本科目は理学療法士国家試験の対策につながる科目であり、講義に加えて自己学習を課す。自己学習においては学習計画に則った予習、復習を基に学習を進める。自らの学力を把握し不足する知識を確認するため理学療法士国家試験と同型式の試験を複数回定期的に実施する。	◎	△	◎					
	理学療法管理学	◆ 理学療法管理学Ⅰ	1	3	春	理学療法士として医療、福祉関係機関で勤務するためには医療保険制度、介護保険制度をはじめ障害者、高齢者に関わる法制度を十分に理解しておかなければならない。また、対象者の個人情報保護し、プライバシーを守るためには個人情報保護法の理解だけでなく、専門職として高い倫理観が要求される。本講義では理学療法士として必要な法制度の理解とともに、臨床実習前に必要な理学療法士としての倫理観の育成を目的に講義、グループワークを行っていく。また、経営的な視点から教育論に関しても講義を行う。		○		△		◎	△	○
		◆ 理学療法管理学Ⅱ	1	3	秋	理学療法は医師、看護師、事務系職員などの協力関係があってはじめて良質なサービスが提供できる。また、理学療法部門は複数の職員で業務を分担する場合が多い。複数かつ他職種の間が協同して活動する際には、活動を円滑に行うための知識とチームを組める技術が必要となる。そこで病院理学療法学部門の組織、管理（人事、総務、労務）、業務（処方関連、診療、記録）、職員教育と生涯学習、経営などの理論と実際について、演習を中心に教授する。理学療法士としての発展的ビジョン、経営・管理者としての思考、臨床業務におけるリーダーシップのあり方も身につけてもらいたい。		○	○	◎	△		○	△
	理学療法評価学	◆ 評価学概論	2	2	春	患者様（対象者）の病態や障害を正しく評価できていなければ、正しい治療的介入が実現できないこととなる。よって本講義では、評価の意義とともに理学療法的評価に関する「基礎的な知識と技術の学修」を旨とし、特に「評価方法の基礎的な技術を習得すること」を主たる目的として開講する。本講義を通じて学生が確実に身につける実技は、「形態測定」・「関節可動域計測」・「徒手筋力検査」である。また「単なる専門的実技の遂行」という水準ではなく、対象者に対する評価実施前の「説明と同意」や「接遇態度」のジェネリックスキルに関する側面の学修も視野に入れながら学ばせる。	◎	△	◎	○		○	△	△
		◆ 評価学実習	1	2	秋	本授業は、大きく分けて「検査学」「動作分析」「理学療法評価」の3つから構成されている。理学療法評価は、各種検査や情報収集によって得られた所見やデータについて「統合と解釈」を行う事により対象者の障害像を浮き彫りにし、臨床介入上の意志決定を行う過程を指すものである。本授業では、第1回目「理学療法評価 総論」で理学療法評価の基本的考え方を修得する。「検査学」の授業では、理学療法における代表的な検査を取り上げ、理論に裏打ちされた確かな技術の修得を目指す。「動作分析」の授業では、正常人や中枢神経系疾患患者の動画教材を多用し、姿勢分析と動作分析の基本的知識と方法を教授する。最終的に実施する「理学療法評価」の授業においては、事例検討を通じ対象者の障害像を浮き彫りにする「統合と解釈」の考え方の習得を目指す。	◎	△	○	◎		○	△	△

授業科目 ◆は必修			単位数	配当年次	履修期	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
専門分野	理学療法評価学	◆ 画像診断学	1	3	春	レントゲン、CT、MRI、エコーなどの医用画像を評価することはリハビリテーション医療を行う上できわめて重要で欠かすことのできないものになっている。セラピストにとっては身体所見を取るうえでも念頭に置くべき基本となる情報である。古典的なレントゲン読影の基礎から最先端の検査法まで教授する。	◎	△	○					
		◆ 運動系理学療法評価学	2	3	春	それぞれの運動器疾患の特徴としての筋、骨格、関節、神経障害および動作、歩行能力障害などについて学習する。また、グループワークや実技演習を取り入れ、評価時の具体的なオリエンテーションの方法から解釈までを行う。検査結果から解釈するボトムアップ的な解釈のみでなく、動作から障害像を把握していくトップダウン的な考え方も学習し、模擬症例に対する評価項目の立案、実施、結果の解釈までを行う。	◎	○	○	△		○	○	△
		◆ 循環呼吸系理学療法評価学	1	2	秋	循環・呼吸器疾患の基礎医学的知識(解剖学、生理学、病理学理学、内科学など)を時間をかけて十分に理解する。その上で循環・呼吸理学療法の基本原則とプロセスを学んでいく。特に理学療法評価に必要な様々な心臓・肺疾患のX線・CT画像の特徴を理解する。	◎	○	○	○			○	△
		◆ 神経系理学療法評価学実習	1	3	春	【春期】は中枢神経系障害の仕組みについて中枢性運動麻痺の様態をはじめとし、感覚障害、各種反射障害、歩行・セルフケア動作障害などについて学習する。また、中枢神経系疾患の理学療法評価を演習して問題点の抽出までを理解し、評価に関する理学療法推論を習得する。グループワーク演習を取り入れ、患者像やハンドリング技術の体得に努める。	◎	○	○			△		
		◆ 理学療法臨床評価演習Ⅰ	1	3	春	これまで学んだ理学療法に関する知識や技術を礎に、臨床現場において必要な情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出までの一連の過程を学ぶ。理学療法評価を系統的に学ぶうえで、臨床技能評価などにより到達度を確認する。	○		○	◎		◎	△	
		◆ 理学療法臨床評価演習Ⅱ	1	3	秋	これまでの学内における知識・技術に対する学習内容ならびに3年次の臨床評価実習の経験を踏まえて、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の過程を系統的に学ぶ。さらに、問題点の推測、必要な評価・問題点の再検討、目標・治療計画の作成を通して、問題点を解決するための基本的な考え方を身につける。なお、理学療法評価を系統的に学ぶうえで、臨床技能評価などにより到達度を確認する。	○		○	◎		◎	○	
	理学療法治療学	◆ 運動療法学総論	1	2	春	理学療法の基軸である運動療法の基礎を総論的に学習し、治療の理論や概念を理解する。運動療法学総論は、運動器の疾患や障害の測定と評価の延長にあり、また運動系理学療法学実習の架橋に位置する。様々なメディアを用いて臨床像を浮きぼりにする。	◎	△	○				△	
		◆ 物理療法学	1	2	秋	各物理療法の特性、原理を学び、それを基にその目的、効果と適応、手順、リスク管理を修得する。	◎	△	○					
		◆ 物理療法学実習	1	3	春	物理療法学で学んだことを基に、各物理療法機器の操作方法および実践スキルを身につけるとともに、臨床実践上必要な情報を容易に喚起できることを目標とする。	◎	△	○					
		◆ 運動系理学療法治療学実習	1	3	秋	「運動系理学療法評価学」の知識を基礎として、代表的な運動器疾患に関しての治療プログラム立案、実施、リスク管理方法を学習する。講義の中では行動科学、運動学習理論を踏まえた対象者への説明方法、治療者として良好な態度についても実践できるようにしていく。また、実際の対象者の画像、生化学検査結果、映像、理学療法評価結果を用いて臨床的推論、対象者の特性を考慮した介入の方法についても学習する。	◎	○	○	△		○	○	△
		◆ 循環呼吸系理学療法治療学実習	1	3	春	循環呼吸系疾患の評価と治療技術について学ぶ。特に呼吸理学療法に関しては、リラクゼーション、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域訓練、排痰法、運動療法と詳しく学ぶ。特に喀痰吸引等実習として、「たんの吸引等」実施に必要な知識・スキルを身につける。	◎	○	○	○			○	△
		◆ 神経系理学療法学	1	2	秋	この講義では、脊椎・脊髄の主要な解剖と機能を理解し、神経組織との関係を把握し、現在脊髄疾患の対象は多岐にわたっている現状を踏まえ、乳幼児から超高齢者の脊髄疾患まで幅広く、さらに多様化、重度化、重複化する状況に対応できるように指導する。また脊髄損傷の病態・障害像を把握して、脊髄損傷の運動療法や日常生活活動について教授する。また脊髄疾患の基礎的理学療法の処方、実践が出来ることを目標とする。	◎		△			○		

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
専門分野	理学療法治療学	◆ 神経系理学療法治療学実習	1	3	秋	【秋期】は脳卒中片麻痺患者を中心に具体的な運動療法手技について学習するとともに、春期の内容を踏まえ、有限の評価情報から理学療法プログラムの立案化を図るトレーニングを行う。また、グループワーク演習も取り入れ、チーム医療における協調性や責任感や報告力を養う。以上は、各疾患や症例固有の理学療法介入モデルを模索することを通じて、知識を実際場面で用いる技術と高度な接遇態度を学ぶと共に、臨床家の思考過程に近づくことをめざすものである。	△	○	○	○		◎	○	△
		◆ 生活技術学	1	2	春	前半はADLの定義と概念を踏まえた上で、ADLを構成する個々の活動の評価や問題点の抽出方法、自立に向けた介入方法の基礎を教授する。同時に、地域生活の自立を指す「生活関連動作（手段的ADL）」を取り上げ、社会参加の促進や障害予防の視座に立った支援について理解を深める。後半は、疾患別の自立支援について代表的疾患である「脳血管障害」「脊髄損傷」を取り上げ理解を深める。本講義では、グループワーク（GW；実習・レポート・プレゼンテーション）を多用すると共に、反転授業や当日レポート方式（BRD）の授業を行う等、受け身ではなく能動的な学びを目指した講義形態とする。	◎	△	△	○		○		
		◆ 生活技術学実習	1	3	春	本授業において、第1回は2年次配当「生活技術学」で取り上げた疾患別の自立支援の続きとして、関節リウマチといったADL支援が重要とされている骨関節疾患を取り上げ教授する。以後第2回より10回までは、基本動作や歩行・車椅子の介助方法について、運動力学といった理論を踏まえつつ、技術の習得に主眼をおいた実習を行う。第11・12回ではセルフケアを取り上げ、評価と介助方法について実技を教え教授する。最終的に、長期臨床実習である「臨床評価実習」を見据えると共に、ADLに関する授業の総まとめとして、「ADL障害の捉え方」と題し事例検討を行い、ADL障害の評価と介入の臨床的思考を修得する。	◎	△	△	○		○	△	△
		◆ 義肢装具学	1	2	秋	義肢装具の構造や役割を理解することを目指す。これまで学修してきた機能解剖学や運動学の知識に関連づけながら義肢装具の意義・目的についての知識、種類・部品と適応に関する知識を身に付ける。3年後期の臨床評価実習を意識し、1年前より理学療法の基本的な態度と技術を養う。臨床実習で必要な主体性や協働性、メタ認知能力・他者に対する共感力等の基本的な態度を養う。そのうえで、理学療法の治療技術として義肢装具・福祉用具・環境整備について学修する。	◎	○	△	△				
		◆ 義肢装具学実習	1	3	春	義肢装具の構造と機能を理解したうえで、使用に関して患者と家族・他職種への指導ができるレベルをめざす。疾患や病態に対する適応、選択・調整に関する知識、装着方法や生活関連動作に関する指導方法、作製・修理に関する制度の知識を身に付ける。義肢装具学で学んだ知識を臨床実習で使えるように体で覚える学修を行なう。講義の前半は教室で授業を行い、後半は実習で体験しながら技術や技能を養う。切断者をモデルにして臨床実習に必要な臨床能力について理解を深める。			△	△	◎	○	△	
		◆ 難病理学療法学	1	3	春	難病に対する理学療法を実施するにあたり、疾患に対する基本的な知識をふまえ、実施の目的が分かり、評価、治療を長期的な見通しを持って組み立てることができるようになる。また、罹患された者やその家族の心理的、社会的側面に関する理解を深め、リハビリテーション従事者として必要な洞察力、共感力を養い、専門職としての関わりの在り方について考えることができることを目標とする。	◎		△			○		
		◆ 障がい児理学療法学	1	3	春	障がいをもつ子どもへの理学療法は、療育の一翼をになう。療育とは、子育てである。従って、特に母親の気持ちを理解し、母親の思いに寄り添いながら、理学療法士の知識を通して支援していくことが基本である。また、重い障がいのために言葉をもたない子どもに対しては、彼らのこころ（認知と感情）に共感し、彼らが本当に何を求めているのかを理解しようとすることが大切である。そのために、運動機能を中心に認知や感情、そしてそれらを通して人間関係を築くコミュニケーション、さらに生命に直接結びつく食べる機能や呼吸機能の評価や技術について学ぶ。子育てであり、生活である療育は24時間続く。24時間繰り返される生活の力や生活の合理性を通して、理学療法士の知識を生活の中にどのように組み込んでいけばよいのかについて学ぶ。	◎		△			○		○
		◆ スポーツ障害	1	3	秋	「スポーツ障害」では、スポーツの競技特性を理解した上で、スポーツ外傷・障害の発生機序について整理する。その上で、スポーツ障害の予防・再発防止が実践できるように、基礎知識と技術を習得する。	◎		△	△			○	○
		◆ 理学療法研究法	1	2	秋	研究に対する基礎的な知識として、研究デザインの大切さ、理学療法領域で用いられることの多い検査測定方法の選択の仕方、統計手法について教科書、講義を通じて整理していく。授業の後半にはグループ毎にテーマを決め、実際に情報収集・データ測定・結果解釈・発表の一連の作業を行ってもらう。			◎	○		○	△	
		◆ 卒業研究演習Ⅰ	1	3	春	4年次における卒業研究の具体化を目指し、研究活動に必要な研究的思考と基本的な知識・技術を修得する。学生は配置されたゼミ担当教員の指導の下に、研究テーマを設定し研究を進める。 卒業研究の導入となるこの科目では、先行研究のレビューに必要な論文クリティークや先行研究の到達点を整理する手法を修得する。また課題発表を通して基本的なプレゼンテーション能力を修得する。			△	○		◎	△	
		◆ 卒業研究演習Ⅱ	1	3	秋	卒業研究演習Ⅰに引き続き、4年次における卒業研究の具体化を目指し、研究活動に必要な実践的な知識・技術を修得する。ゼミ担当教員の指導の下に、研究テーマを設定し研究の具体化する。 演習Ⅰで修得した研究の基礎的知識と技術を手がかりに、研究計画の作成や、測定・データ収集に必要な具体的技術を修得する。また研究成果をわかりやすく伝えるための口頭発表・プレゼンテーション能力を修得する。			○	○		◎	○	
		◆ 卒業研究	1	4	秋	3年次における卒業研究演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、卒業研究を成果としてまとめ、学会形式での発表課題に取り組み、基本的な研究遂行能力とプレゼンテーション能力を修得する。 ゼミ担当教員の指導の下、卒業研究のテーマに沿った先行研究のレビュー、研究計画書の作成、データの収集・分析という一連の過程を経て、卒業研究を完成させる。ゼミの開催場所や日程については、担当教員と協議の上で決定する。	○	○	○	◎				

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
専門分野	理学療法治療学	◆ 理学療法臨床技能演習	1	4	秋	この講義では仮想症例を題材にして、シナリオの提示→仮説構築→情報の提示→説構築という流れに沿って4コマ分／一症例のペースで進めていく。また自宅学習として、1 症例につき、2枚のポートフォリオシートを作成する。ここでは、臨床思考図を用い、臨床思考図では、症例の運動機能障害をいかにとらえ、どのような関連因子が考えられるのか、どこに介入していけばよいのか、介入プログラムは何か、といった着眼点を可視化することにより、臨床推論能力を高めたい。	○		○	◎		◎	○	
		リハビリテーション工学	1	3	秋	理学療法士・作業療法士に必要な福祉機器を中心に、リハビリテーション工学の基礎及び応用の教授、新しい福祉機器の紹介、リハビリテーション機器に関する実習・グループ討議を行う。	○	△		○		◎		
		◆ ヘルスプロモーション	1	4	秋	高齢者の健康増進、転倒やフレイルの予防といったヘルスプロモーションを実践する上で必要な、身体機能、精神機能、心理社会的な特性、そして社会的動向や制度を総合的に理解し、リハビリテーション専門職として適切な指導や支援介入を実践できることを教授目的とする。講義の他に一部実技も含めた内容で構成され、理学療法学科・作業療法学科の各 6 名の教員によりオムニバス形式で行なう。	○	△		○		◎		
	地域理学療法学	◆ 地域レクリエーション演習	1	1	春	到達目標：学生は、『レクリエーションの社会的意義についての理解』ができる。学生は、『レクリエーション支援者としての役割についての理解』ができる。学生は、『セラピューティックなレクリエーションとは何か？』についての理解』ができる。 授業内容：本講義では「地域在住の中・高齢者を対象とした心身の健康における維持・増進」や「通所系・入所系施設を利用されている対象者におけるQOLの向上」に資する内容（理論・実技）に視座した教育を展開する。また、地域在住の人々が余暇を利用したQOL向上や、対象者個々における「その人らしい充実した生活の創出を実現するための支援」に資する戦略的思考を身につける為の演習を段階的かつ誘導的に実施し、その支援スキルを身につけさせる。		△	△	○	○	○	◎	○
		中山間地域健康増進演習	1	1	秋	到達目標：地域の健康増進や介護予防の事業における社会的意義について理解ができる。地域の健康増進や介護予防の事業における支援者としての素養体験を蓄積できる。地域の健康増進や介護予防の事業における支援者としての基本力（知識・知恵）を修得できる。 授業内容：吉備国際大学の所在地である岡山県高梁市は「中山間地域」という地域属性であり、高齢化率の著しい増加とともに「通いの場の少なさ」に伴う地域在住高齢者の方々における「ICFでいうところの参加」の機会減少が懸念されている。本講義では、高梁市介護保険課が主幹となって運営されている複数の地域包括ケアシステムに関連している事業等を題材として、特に「中山間地域におけるリハビリテーション関連職のあり方（かかわり方）」について、中山間地域事業への参加体験や見学を交えながら学びを深めていく。	△	△	○	◎	○	○		△
		◆ 地域における生活環境学	1	3	秋	要介護状態や要支援状態にある人々が、家庭や地域社会において可能な限り自立した生活や社会参加の促進を図っていくためには、身体の障害そのものに対する支援介入だけではなく、生活環境に関する評価とアプローチが不可欠である。本講義では「生活環境に関する基本的概念」をふまえながら「福祉用具の導入」や「住宅改修」を前提とした評価や具体的なアプローチ方法について教授し、理学療法の対象となる代表的な疾患事例を取り上げながら「家屋や家屋周辺の製図」についても学修させる。また、生活環境支援を保証する各種保健福祉制度の概要、ならびに地域環境整備の重要性とそれをふまえた支援介入のあり方についても学修させる。	○	△	◎		○	◎	△	△
		◆ 国際貢献・地域理学療法学	1	3	秋	高齢化社会を迎える現在では、病院のみならず地域での理学療法士の活動の必要性が増している。それは国内に留まらず、青年海外協力隊などの国際貢献の必要性も示している。本科目では地域理学療法概念だけでなく、実際の国内外での活動内容や事例を交えながら地域理学療法についての理解を深める。また、他職種の活動内容も紹介しながら、対象者支援のための他職種と連携した課題解決方法をグループワークなどを用いて討論していく。講義の中では地域理学療法の実態を調査するなどのフィールドワークも取り入れる。	△	○	△	○	◎	○	○	◎
	臨床実習	◆ 臨床見学実習	1	2	秋	実習内容(1)見学（施設見学・治療見学）、(2)対象者に接する体験（搬送などの手伝い、評価治療の簡単な補助）、(3)評価の初歩的経験（カルテからの情報収集、簡単な検査の経験、動作分析の経験）。1施設に2名～4名程度を配置する。実習期間は1週間で、最終日にはセミナーを開催し、各施設での見学内容について報告会を行う。実習での課題(1)デイリーノートの記載、(2)感想文の提出（実習指導者宛）、(3)レポートの提出（大学宛）								
		◆ 臨床評価実習	4	3	春	これまで学んだ理学療法に関する知識や技術を基礎に、臨床現場において実習指導者の指導監督の下、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの実習を行う。また実習指導者の判断で実行可能であれば初歩的な治療を体験する。本実習の目標は、理学療法評価の一連の流れを経験し、学内で学んだ知識や技術の習熟を図り、理学療法対象者の全般的な理解が出来るようになる事である。	○	○	○	◎	△	◎	◎	
		◆ 地域理学療法学実習	1	3	秋	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設（訪問看護ステーション、介護老人保健施設、医療機関の在宅訪問指導、障害者施設等）での見学実習を中心に学ぶ。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	△
		◆ 総合臨床実習	16	4	春	これまでの学内における知識・技術に対する学習内容ならびに3年次の臨床評価実習の経験を踏まえて、臨床実習指導者の指導の下で「情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案、治療の実施、検証まで」の一連の流れが行えるようになる。臨床場面で求められる基本的な理学療法が模倣レベルで可能となるとともに、理学療法のプロセスを理解し、論理的に考えることの重要性について認識する。なお、技術等に関して実習前に臨床技能評価等による評価を行い、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認し、その評価を踏まえた臨床教育を臨床実習施設で行い、その判定を臨床実習後の評価等で行う。	○	○	○	◎	△	◎	◎	

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
教育学に関する科目	教育原論	2	1		到達目標：教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる。代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する。近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する。家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する。上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ。 授業内容：本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらう。	◎	△					○	
	教職論	2	1		到達目標：教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。 授業内容：教師、教職、人を教えるという行為など、教育という営みをめぐる哲学、原理的な課題からはじまり、学校教育、教員の使命と役割、学校における教員のさまざまな活動について理解する。また、これからの学校においては「チームとしての学校」の体制の中で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。	◎	△					○	
	教育行政学	2	2		到達目標：教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する。学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する。学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する。子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する。現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する。子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようになる。 授業内容：教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解する。	◎		△				○	△
	教育心理学	2	2		到達目標：教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ。児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける。児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける。 授業内容：この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。	◎	△					○	
	特別支援教育	1	2		到達目標：、発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。 授業内容：特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、指導内容と具体的な方法を学ぶ。	◎	△					○	